

22年産を振り返る

天候？ 施肥量？

品質低下の原因を探る

- △ 反収 7 俵 (飼料用米のため等級格付けなし、品質は2等相当) と 9 俵 (加工用米で全量1等格付け)
- ◇ 特栽県認証コシヒカリ
- △ 反収 7 俵 (2等相当) と 9 俵 (1等相当) 全量直販のため受検せず。
- △ 酒米の越淡麗
- △ 反収 7・5 俵 (全量1等格付け)
- ◇ 有機コシヒカリ
- △ 反収 8 俵弱 (全量1等格付け)
- 結果的には、受検したものは総て1等格付けとなりました。
- また、幸いにして反収7俵の田は、こしいぶきの0・8ルアとコシヒカリの1・5kgのみでしたので、高温に

今回は、前月号でお知らせした「異常高温と米の品質低下の関係」について触れなくてはなりません。その前に、我が家の今年産の収量と品質の結果について大まかな報告をさせていただきます。

生産者通信

NPO法人
ミニケーションセンター
定価 100円(送料込)

さて、今年産の品質低下の要因になつた基部・背白未熟粒に関して、古いことになつて恐縮ですが、印象に残つてゐる事例を2点記させていただきます。現在ではまつたく作付されなくなりましたが、かつて多収品種として「新潟早生」が県内全域で作付されていました。紋枯病に弱くて一度作付した田には、何年経過しても紋枯病の菌核が残つてしまい、閉口して

①収量が大きく落ち込み品質も悪かつた田に共通しているのは、耕土が浅く、地力がなく、比較的施肥量の多い田だつたということです。

問題は、同一地域の同じ条件下で、ほとんど同じ栽培管理を行つたにも関わらず、なぜ田によつて反当り2俵もの収量差があり、しかも品質に大きな差が出てしまつたのかということです。

よると思われる減収被害は限定的でした。減収の直接的な原因は茎数不足です。さらに、収量の少なかつた田のこしいぶきと特栽のコシヒカリは基部未熟・背白・乳心白粒が多く、県内で問題になつてゐる高温障害をモロに受けてしまつたようです。

ました。田植時期の5日程
度の差は出穂期では1～2
日程度の違いにしかなりま
せん。わずか1～2日の出
穂期の違いで、基部・背白
等の発生に劇的な相違がで
ることに私自身は驚いてし
まつたことを覚えていました。
③高温障害を受けるか否
かのタイミングは極めて短

ほとんどが1等になる集落と、逆にほとんどが2等に格付けされる集落にはつきりと分かれてしまつてゐるところが判りました。隣接している集落ですから気象（温度）による差はほとんどありません。ただ、水慣行でそれぞれの集落に田植時期にかかる日ほど早免があり

20年程度前のある検査場所での経験です。やはり、出穂期前後が高温の年でした。コシヒカリの品質が今年同様に基部・背白等の発生で1等と2等の比率が半々程度のことがありました。ところが集落によつて

いました。この品種は比較的乳心白や基部・背白が発生しやすかつたのですが、早刈りしたものには少なく、遅刈りする程それらが多発する傾向がありました。

②基部・背白等の発生要因は異常高温だけではないのではないかということです。もう一言は、白奇也或の

限高类品管低下

卷之三

施肥少なさ影響か

私自身の個人的な経験と
見解ですが、とりあえず①
～④の問題提起をさせてい
ただきました。高温障害と
いわれる基部・背白等の発

たが、掘り下げた検討をいただいて原因究明と、技術対策を示していただきを期待したいものです。

期間(時間)に限定される可能性があるのではないかとも考えられるのです。

④一穂についている穀の中にも、高温障害を受けて基部・背白等の発生した米粒と、障害を受けずにまつたく健全な米粒が混在しているわけですが、それはなぜでしょうか。

生原因を究明するための本質に迫つているかどうかは疑問ですが、この先は学者や専門家の皆さんのが領域だということでお許しをいただきたいのです。

県は2010年産米の品質が低下した原因を究明するための専門家による研究会を設置することになりました。

震災体験基に 防災用品開発

中越の各社

中越では「にいがた防災創造機構(=NICO)防災・救災研究会」の会員の6社などが、耐震用品の開発に取り組む。業種も多様だ。中でも、県内外の多くの企業が製造するのが非

被災地だからこそ得られたノウハウとともに、国内外の医師などに商品を紹介。腎臓疾患などで食事制限中の人も食べられる低タンパクの備蓄食「ほんぶん米」は、東京都から計10万食を受注するヒット商品になった。

しかし、常に顧問に仰る
× ×

同社は、普段も便器、被災時も役立つ製品開発も進め、紙製の折り畳み式担架などを作る。年間の販売額は、更衣室は数有料で秀げ込むわけにはいかない」とフレンマを明かす。

酒井監査長は「中堅の企業が作ったといえ、防災に特化したものでなく、お災害に強い印象を持つてもらえる。このブランド力を生かすこと、が、被災というマイナスをプラスに変えるのにつながる」と力を込めた。

用レトルト米飯だ一味付けするものが被災者への配慮と思われがち。でも実際はトイレに行く回数を減らしたいと、専用ホール製の更衣室を含むものは避けられていた」と指摘するのは工場(同市)の安藤吉知社長(56)。経済状況が厳しい中、今すぐ必要なわけではない防災用品は、それでも後回しにされる傾向がある。かといって、いざ災難としている被災地へ、

ヒツト作も徐々に
平常時活用へ工夫重ねる

食事開催に出席した非常食の折り畳み式の兜架、一方に社員の所在確認ができるシステム¹。中越地域の企業が、中越地帯、震や中越沖地震、7・13木更津の経験を生かし、防災関連の商品開発を進め、ヒット商品も出発

News
ピックアップ

めている。した、不況や昭和本
の財政難の中、緊急貸しか必要
とされない箇所の借り込みは難
しきの実情で、各社は平常時
にも店頭で見る製品を開拓する
を工夫している。

や個人が主となるのではなく、
に「頭などに悩まるケー
スが多い」という。
X X
パソコンや携帯電話の
メール機能を利用して、
社員の所在確認ができる
システムを開発したイ
ートラスト(同市)の齋
井龍二副社長(46)も「現
実運用のシステムより
むしろ導入が立つの
が求められている」と
言つ。

2010年11月26日付 新潟日報

農機具の手入れは完璧ですか？

機械の清掃は米の品質管理につながります

今年の稻作シーズンも終わりを迎えましたが、
使用した機械のお手入れはすみましたか?
来シーズンをスムーズに迎えるためにも、清掃と
破損個所のチェックをお勧めします!

